



—日本共産党 北海道議会議員—

丸山はるみ いきいき通信 No.31

道政報告
2025年12月号



ホームページ



Facebook



X(Twitter)



Instagram

決算特別委員会知事総括

道議会決算特別委員会が11月7日～13日に行われました。

丸山はるみ道議は釧路湿原で大規模太陽光発電所の建設が行われている問題で法令遵守・正当な手続きのあり方、適正な規模、環境と生物多様性の保全等について知事に質しました。

メガソーラー開発は生物多様性の保全とともに



知事総括質問に立つ、
丸山はるみ道議

釧路湿原でのメガソーラー建設事業では、オジロワシの営巣やキタサンショウウオの生息調査を適切に行わなければなりません。いままでの工事着手、樹木の違法伐採、土砂の盛り土が大きな問題になっています。丸山道議は事業者に厳正に対応することを知事に迫りました。

知事は事業者が速やかに調査を実施するよう強く要請しました。知事の答弁は、市町村や関係部局間の連携を強化し、事案の早期

不適切な生息調査 違法な樹木伐採

丸山道議はさらに、う対応状況を隨時、確認する考え方と答弁しました。

実効性ある対策を求めて

丸山道議は、釧路市を訪問し、専門家や市の見解をうかがつたとして、生物多様性が可能になるよう釧路市が条例制定に踏み込んだことを紹介しました。そのうえで「再生可能エネルギー発電は、適切な規模で生物多様性を保全しながら進めるべき」と対策を要求しました。

知事も「地域の理解のもと生物多様性、自然環境、景観との調和が前提」と述べました。

釧路市 濁原埋め立てメガソーラー実態視察

埋立て地の約200ha
先には猛禽類医学研究所

最初の視察先、環境省釧路湿原野生生物保護センター内では、猛禽類医学研究所所長の齊藤慶輔代表、渡辺有希子副代表よりお話を聞きました。ともに獣医師であり、問題の事業者は野生生物

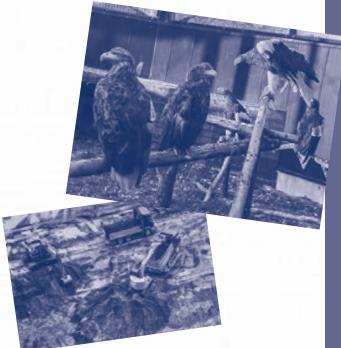
の事業者が釧路湿原国立公園周辺の所有地について、森林法上、道の許可が必要な0.5haを超える伐採をしていることが判明し、道は工事中止を勧告。さらに周辺湿地の大規模な盛り土など、複数の法令違反の恐れがある件で、道議団は調査のため釧路市に向かいました。

メガソーラー建設現場を視察する（左から）真下、丸山両道議
キタサンショウウオの生息地でもある釧路湿原、原状回復は？

盛り土の土は、由来も有害物質の有無も不明、取り除いたとしても湿地の原状回復には、「私たちの世代では無理ではないか」と齊藤先生は語りました。釧路市役所に場所を移し、市環境保全課に加え市立博物館館長から、釧路市指定の天然記念物キ

タサンショウウオについて伺いました。キタサンショウウオは、絶滅危惧種にも指定され、その生息域は釧路湿原と北方4島の国後島など「くわづか」です。

調査は市が求める2年の期間を満たしていないなど不十分です。工事中止要請が続いているなか、厳正な対応を道に求めれる考えを伝え、視察を終えました。



「釧路メガソーラー」 党道議団が政府要請

11月17日、日本共産党道議団は、環境省などの関係省庁に対し、慣例法令で認可後の事業であっても、違法行為があれば中止できるような法整備を求めました。

道議団は「多くの法律が複雑に入り込んでいて規制が機能していない。法に基づく調査も不十分であり、事業者の適格性を判断する仕組みが必要」と強調しました。



環境省担当者に要請書を渡す（左から）丸山・真下両道議



第69回北海道女性議員協議会in室蘭 港湾と工業を中心に発展してきた室蘭市で開催



女性採用の利点や苦労などを質問する丸山議員

1952年に札幌で第1回目を開催して以降、原則年1回党派を超えて道内の女性議員が集まって、その時々の課題を取り上げてきました。企画運営は開催地の女性議員が行っています。

女性の社長も講師に

今野鉄工所、現在代表取締役・今野香澄氏は2008年入社、経理の

人材不足は室蘭市も例外ではありません。経済部産業振興係長・松田奈緒美氏からは、今年7月開催の高校1年生から参加できる職場環境見学バッツアーの紹介でした。女性ドライバーが最後に女性ドライバーが最後に女性を応援しています。

人材確保と女性の活躍

仕事に就きましたが、父、叔父に続き2013年に3代目の代表取締役に就任。製造の現場にも女性を雇用しています。多様な人材がいることで視点が変わると、子育て中の悩みにも寄り添い、長く働いてほしいと語る様子が、やさしくも頼もしい印象でした。



市民の声を反映した複合施設

会場となつた生涯学習センター“きらん”は、市民の声で図書館、キッズパーク、カフェコーナー、音楽スタジオに陶芸の窯も備えていました。

原発再稼働めぐり不適切発言！



事が起きたのは定例会初日。注目の泊原発再稼働を知事は『総合的に判断』と答弁したのに、職員にメモを入れられ段階間際に『最終的に判断』と訂正。真下紀子議員がすかさず議事進行をかけ理由の説明を求めたところ、暫時休会に。

ヤジが飛び交う議場。混乱の中議員席から「今こそ緊急銃弾を」と。言論封殺の、あまりに不穏な発言であり、日本共産党道義団は謝罪と撤回を求める議長に申し入れ記者会見を行いました。

謝罪と撤回求める

介護報酬引き上げ等緊急要望

「介護の社会化」をうたい、25年前に導入された介護保険制度。2027年の制度改正に向け、議論されているのは、ケアプラン有料化や要介護1・2の保険外し。そうではなく利用者に使いやすい制度、働く人が誇りを持てる待遇と利用者が安心できる制度を実現しましょうと懇談しました。



生活クラブ生協の皆さんから要請を受け
る（左から）丸山、真下両道議

北海道原子力防災総合訓練を視察 —「原子力災害の発生」と「地震等による被害」を想定—

10月29日、万一の場合に防災対策を円滑に実施出来るよう、関係機関との連携や関係者の防災技術の向上を図るため、道と原発周辺13町村が主催した防災訓練が行われ、その様子を丸山議員が視察しました。

北海道原子力防災センター

共和町にあるセンターの運営に関する訓練は、原発周辺の道路が通行止めとなった想定で行われました。情報共有のために張り出された地図を見ると、実際の避難の困難さは想像以上であろうと感じました。緊急時には150人を超える要員が、ここでの運営にあたることになります。



多方面で活躍するドローン

昨年度の視察に引き続き、今回もドローンで上空から災害情報の収集、映像での確認の様子を視察しました。住民への広報は、多言語対応可能です。今回は物資輸送訓練で、約25kgまでの荷物をドローンで運ぶ訓練が行われました。

アップルポート余市にヘリで避難

前日に地震が起きたと想定し、孤立した神恵内村からヘリで避難する訓練です。今回はお二人がヘリに乗り込みます。実際は、一度に最大10人程度、所要時間は片道15分程。しかし天候の影響は受けているでしょう。

屋内退避にエアテント



複合災害で想定される屋内退避。陽圧の室内環境が大きな課題です。今回、古平町の障害者支援施設「共働の家」で、移動が可能な陽圧防護テントが紹介されました。

居室用は8畳四方、10床のキャンプ用ベッドが設置可能。空気浄化の機械をセットにして、約3千万円という説明でした。

屋内退避中の陽圧環境は多くの人が懸念を示しています。技術的には対応可能としても費用は誰が負担するのか。国や道、北海道電力が責任を持つのか、大いに疑問を感じました。